

(様式 1)

県政調査計画書

令和7年2月4日

神奈川県議会議員

殿

会派名 立憲民主党・かながわクラブ神奈川県議会議員団

団長名 齊藤 たかみ

県政調査を次のとおり計画しましたので、よろしくお取り計らいください。

1 調査議員	(調査団長) 米村 和彦 (団 員) てらさき 雄介 市川 よし子 望月 聖子 須田 こうへい 野内 みつえ 相原 しほ 平野 みぎわ
2 調査目的	米軍基地周辺での港湾の安全確保及びPFOS等の処理の取組、米軍基地と地元との関係づくり等の取組、刑務所における知的障害がある受刑者の立ち直りの支援の取組、コンパクト化された小水力発電所の取組、民間活力を生かした公園の整備・管理や利用の促進に関する取組など、特徴ある基地対策、更生支援、再生可能エネルギー施策、Park-PFI（公募設置管理制度）を調査することにより、本県における今後の施策調査の参考にする。
3 調査期間	令和7年3月26日 ～ 令和7年3月28日
4 調査地	長崎県、佐賀県
5 調査項目	(1) 佐世保基地施設（九州防衛局） 佐世保基地施設（九州防衛局）は、所在する佐世保港において、本県の横須賀港や横浜港と同様に、米軍施設をはじめ多くの防衛施設が所在し、かつ民間企業等の施設が混在している状況にあるため、船舶の安全な航行の確保に向けた取組を行っている。またPFOS等について、米軍をはじめ関係機関と連携し、存在状況等の把握に努めている こうした取組を調査することにより、米軍基地施策の参考とする。



(2) 佐世保市役所

佐世保市役所は市内において、本県と同様に米軍及び海上・陸上自衛隊の重要な基地が所在しており、基地との共存共栄のため、良好な関係づくりに向けた、様々な取組を行っている。

こうした取組を調査することにより、米軍基地施策の参考とする。

(3) 長崎刑務所

長崎刑務所は、累犯障害者の更生に向け、令和4年から、九州各地の刑務所などから知的障害のある受刑者などを集め、特性に応じた作業や訓練を進めるなどして立ち直りを支援する「知的障害受刑者処遇・支援モデル事業」を社会福祉法人と連携して行っている。刑事施設では全国唯一の「社会復帰支援部門」の設置となっており、全国展開を見据え、知的障害がある受刑者の立ち直りを支援する事業を実施している。

こうした取組を調査することにより、犯罪者の更生支援策の参考とする。

(4) 松隈小水力発電所

松隈小水力発電所は、佐賀県の小水力発電所のモデル事業として、地区内の農地・山林・水利施設の維持管理活用を図ることを目的に建設された。採算性のとれる最低出力(30kW)をターゲットとし、コンパクトで汎用化されており、工場で組み立てて、トラックによる運搬が可能で比較的安価に設置できることから、低コスト化、リスク削減を実現している。

こうした取組を調査することにより、再生可能エネルギーの普及促進に向けた小水力発電の推進施策の参考とする。

(5) 県立吉野ヶ里歴史公園(県所有施設キャンプフィールド)

県立吉野ヶ里歴史公園では、日本で初めて、キャンプフィールドを含む体験型複合リゾートが2025年に開業する予定となっている。今回の事業については、官民連携事業により整備が進められている。民間事業者の運営期間は、最長で20年間を想定しており、県から民間事業者へ管理・運営費等の支払いはなく、自立性の高いものとなっている。

こうした取組を調査することにより、民間活力を生かした公園の整備・管理や利用の促進に関する施策の参考とする。

6 経費の概算額	1人当たりの議員旅費 … 192,160 円		
	内訳 交 通 費 … 157,800 円		
	宿 泊 費 … 33,000 円		
	視察研修費 … 1,000 円		
	雑 費 … 360 円		

* 日程表を添付する。

(様式2)

県政調査日程表

日	月日(曜)	調査地	現地時間	交通機関 (所要時間)	調査箇所及び調査内容
1	3月26日 (水)	長崎県 佐世保市	午前 午後	航空機 借上バス	移動(羽田空港 → 長崎空港) ■ 佐世保基地施設(九州防衛局) ・佐世保港での港湾の安全確保及びPFOS等の処理の 取組 ＜佐世保市内宿泊＞
2	3月27日 (木)	長崎県 佐世保市 長崎県 諫早市	午前 午後	借上バス 借上バス	■ 佐世保市役所 ・米軍基地と地元との関係づくり等の取組 ■ 長崎刑務所 ・知的障害のある犯罪者の更生支援 移動(長崎県諫早市 → 佐賀県佐賀市) ＜佐賀市内宿泊＞
3	3月28日 (金)	佐賀県 吉野ヶ里町 同上	午前 午後 午後	借上バス 借上バス 航空機	■ 松隈小水力発電所 ・再生可能エネルギーの普及促進に向けた小水力発電 の推進の取組 ■ 県立吉野ヶ里歴史公園(県所有施設キャンプフィールド) ・民間活力を生かした公園の整備・管理や利用の促進に 関する取組 移動(福岡空港 → 羽田空港)

県政調査計画審査結果

県政調査計画について審査したところ、結果は次のとおりでした。

調査実施議員名	(調査団長) 米村 和彦 (団 員) てらさき 雄介 市川 よし子 望月 聖子 須田 こうへい 野内 みつえ 相原 しほ 平野 みぎわ
---------	---

1 要領 2 (1) の基準への適否

区 分	調査の基準	計画の内容	適否
① 調 査 経 費	議員 1 人当たり 100 万円以内	議員 1 人当たりの経費は 192,160 円であり、基準を満たしている。	適
② 調 査 箇 所	1 日につき午前及び午後それぞれ 1 か所以上調査実施 移動日は 1 か所以上調査実施	2 泊 3 日の行程の中で、移動日は 1 箇所以上、それ以外の日は午前および午後それぞれ 1 箇所以上調査を実施する行程となっている。	適

2 調査計画に対する審査所見

区 分	所 見
① 調査の実施が県政課題解決の一助となるか。	(1) 佐世保基地施設（九州防衛局） 佐世保基地施設（九州防衛局）は、所在する佐世保港において民間企業等の施設が混在していることから、船舶の安全な航行の確保に向けた取組を行っている。またPFOS等について、米軍施設をはじめ関係機関と連携し、存在状況等の把握に努めている。佐世保基地施設（九州防衛局）の取組を調査することは、県政課題解決の一助となるものと認められる。 (2) 佐世保市役所 佐世保市役所は市内において、本県と同様に米軍及び海上・陸上自衛隊の重要な基地が所在しており、基地との共存共栄のため、良好な関係づくりに向けた様々な取組を行っていることから、佐世保市役所の取組を調査することは、県政課題の一助になるものと認められる。 (3) 長崎刑務所 長崎刑務所は、累犯障害者の更生に向け、令和4年から、九州各地の刑務所などから知的障害のある受刑者などを集め、特性に応じた作業や訓練を進めるなどして立ち直りを支援する「知的障害受刑者処遇・支援モデル事業」を社会福祉法人と連携して行っている。刑事施設では全国唯一の「社会復帰支援部門」の設置となっており、全国展開を見据え、知的障害がある受刑者の立ち直りを支援する事業を実施している。長崎刑務所の取組を調査することは、県政課題の解決の一助になるものと認められる。 (4) 松隈小水力発電所 松隈小水力発電所は、佐賀県の小水力発電所のモデル事業として建設された。採算性のとれる最低出力をターゲットとし、コンパクトで汎用化されており、低コスト化、リスク削減を実現していることから、松隈小水力発電所の取組を調査することは、県政課題の解決の一助になるものと認められる。 (5) 県立吉野ヶ里歴史公園（県所有施設キャンプフィールド） 県立吉野ヶ里歴史公園では、日本で初めて、キャンプフィールドを含む体験型複合リゾートが2025年に開業する予定となっている。今回の事業は、官民連携事業により整備が進められており、民間事業者の運営期間は、最長で20年間を想定している。県から民間事業者へ管理・運営費等の支払いはなく、自立性の高いものとなっていることから、県立吉野ヶ里公園の取組を調査することは、県政課題の解決の一助になるものと認められる。

② 調査の実施時期が時宜を得たものか。	今回の調査対象項目は、どれも本県の重点施策と関連したものであり、本調査により先進的な取組や事例を調査することは時宜を得たものである。
③ 現地に赴かなければ調査目的が達成できないものか。	各分野において、今後の本県における施策の取組に活かして行くためには、現地に赴き、現地の職員から、事業内容者その成果について、具体、詳細に調査及び聴取しなければ調査目的が達成できないものである。
④ 調査箇所、行程、経費等は妥当なものか。	調査箇所、行程、経費等は県政調査実施要領の基準を満たしており、妥当である。